



結果を報告します 秋季 住民懇談会



10月11日から23日にかけて市内14会場で住民懇談会を開催しました。今回は平成25年度の市の予算編成に向け、市民の皆さんから様々なご要望やご意見をお聞かせいただいたほか、市立赤平総合病院の病棟改築(案)についてご説明させていただきましたが、病棟改築に関しましては、全ての会場において改築してほしい、改築すべきとのご意見をいただきました。主なご意見は以下のとおりです。

Q 市民は病棟の建替えを、もっと前から望んでいたはずでは、不良債務(29億円)を解消することが最優先で、皆さんに建替えのお話を伝えられるのは、29億円が0円になった事が非常に大きく、それによってお金を借りられ建設費等の元利償還金に対し国からの交付税措置(算入)額7億円を見込むことができる状態となりました。

Q 病棟の改築により、借金が增えるのではと心配するが、借金は十分に返せるということか。

A 病棟の建替えにより、借入返済の実負担が毎年4,000万円となるが、新しい病棟になることで、現在かかっている修繕費や燃料費の削減と療養病棟の加算額により十分返せます。

Q 計画を進め、努力された方々があらためて、苦勞することにならないか。

A 耐震補強するだけで4億円、更にそれに付随する工事で2億円以上となり、合計6から7億円かかっています。無理のない計画を進めているということとを理解してください。

Q 私も入院したことがあるので建替えには十分理解する。ただ市の財政としての体力は大丈夫なのか。

Q 公営企業繰出基準があつて、市が半分負担することになります。市の負担は9億2,500万円ありますが、国からの地方交付税に算入され、実質、市の負担は2億2,500万円、年平均にすると1,000万円となります。

Q 患者数も減っているようだが、改築したらどうなるのか。

A 病床稼働率は、現在も95%で推移しており、改築後も一般病床60床、療養病床60床の計120床の予定です。

Q 赤平の病院も砂川の病院に近いくらい素晴らしくなるのか。

A 砂川や滝川は全面改築ですが、赤平の場合は病棟のみの改築です。一番大きい部屋で4名を想定し、6人部屋は想定していません。個室等の割合も増やさなければならぬと考えています。

Q 建設費の圧縮については当然検討していかなければいけないが、削減に走りすぎて、後悔のないように進めてほしい。

A 院内では、医師や医療職から十分、要望も含め意見を聞いています。将来的に必要なものは対応していきたいと考えています。

Q 熱源について、ガスと電気の使用も想定しているようだが、電気については原発の問題もあり心配ではないか。

A 重油の単価が年々上がり、不安定になっており、コスト削減を目指すため、今後は熱源の調査も行う予定です。

Q 外来が減少していくところが気になる。病院の収益として大丈夫なのか。

A 外来から入院につながることもあるので大切ですが、収益としては、外来より入院の比率の方が高いので、患者の紹介を含む地域連携の中で確保していきます。

Q 人口減は確かに進むと思うが、高齢化社会が進むので、病院にかかる高齢者の患者は減らないと思う。

A 外来については、人口減の影響を加味していますが、入院についてはある程度減少し、その後は横ばいと推計しています。

Q 現在使用している古い病棟は除却するのか。

A 建替え後、駐車スペース確保のため除却する予定です。とにかくひどいのはトイレ。早く綺麗にして欲しい。

A 議会でも特別委員会を設置していたとき、近日近隣の

病院を視察に行く予定になっています。市側は住民懇談会を通して、皆さんからの意見要望を聞いて、最後に議会と調整して決めて行きたいと考えています。

Q 大切なのは赤平の市立病院として果たす役割。特徴を活かす病院にしくはないか。

A 外来診療は、総合的な内科・外科・小児科に加え、整形外科が重要であり、また入院は急性期から慢性期、地域連携における後方支援的な役割も担わなければならないと考えています。

Q 予防に力を入れるべきだと思うが、病院と併設して健康づくりの施設をつくることできないか。

A 新たな建物が伴うものは検討が必要だと思います。ソフト的な内容については十分取り入れて行きたいと思っています。

Q 病棟の改築については100%望んでいる。改築にあたって、市民の意見を聞けるような場を設けることは考えていないのか。

A 今回の懇談会は建替えがよいかどうかの趣旨なので、今後、施設に対する市民意見の聴取の方法については、ホームページや広報誌の活用も含め検討していきたいと考えています。

Q 自治体病院とは地域住民によって作られた病院。市民の意識も変えていかないと駄目だと思っています。

A 以前、市民アンケートをとりましたが、病院を無くさないで欲しいとの意見が95%を超えていました。今、病院は医師、看護師を含め一生懸命やっています。地域の医療を守るということが大切だと思っています。

Q 市立病院のスローガンが掲げられているが、市民が病院をつくっているというスローガンも策定してはどうだろうか。

A 改築が実現されたときは、病院の名称が総合病院となっているので変更したほうが良いのではないかと言う意見もあります。スローガンについても今後検討していきます。

Q 高度な医療機器の導入を将来的に検討する必要があると思う。

A 今回の病棟改築に対する経費の中には、高度の医療機器の購入は入っておりません。今後、費用対効果を含め購入を協議していきます。

Q 建築主体は地元企業の対応となるのか。

A 建てる際にはそれらも含めて検討して行かなければなら

ないと思っています。

Q 数字の話を聞いても私たちがわからない。要するに赤平市がまた借金地獄に落ちるんじゃないかと言う心配がある。

A 絶対大丈夫だとは言いきれません。やつと黒字となり以前と同じようなことはできないと思っています。今回の計画は相当慎重に検討し、人口減などを加味して、収益は決して上向くとは積算していません。また医師確保や診療報酬改定など、不安要素もあるなか、計画が大きく狂わないように慎重に進めて参りますが、万が一、狂ったときには、一般会計でも、対応を考えていかなければならないと思っています。

Q 診療所になるとしたら、どのようになるのか。

A ベッドが19床以下、今いる医師も赤平には残らなくなり、想定される規模からいって救急外来を行うことも不可能になってくる。また現在入院している120名近くの患者さんの転院先も必要となるため、極めて厳しい状況となります。

Q 病院の質は医師や看護師による影響は大きいと思う。

A 病院の質は医師や看護師に

よる影響は大きいと思う。中長期的に医師の確保ができるような対策はたてているのか。

A 今後は地域枠制度がどう機能してくるのか、先行きが判らない部分ではありますが、このままの病棟では施設としても、経営としても立ち行かなくなってしまう。大学病院の医局とのつながりを維持しながら、今後も医師確保に向け最大限努力していきます。

その他

Q これからの赤平の企業の見通し、歳入の部分(固定資産税を含め税金)の推移はどうなるのか。

A 企業はそれぞれ懸命に努力しています。国際情勢・国内経済状況もありますが、ここ1、2年は法人市民税は若干ではありますが上がってきています。

Q 町内会館等の収入が減少し、将来的に町内で管理できなくなる。その辺は市としてどう考えているのか。

A 人口や世帯数も減少し、単独の町内会で会館等を維持することは難しくなってきており、複数の町内会で共同利用するようなことも考えていただく時期が来るかもしれません。

Q 会館については自分たちにも責任がある。昔は各町内が建てられ建てられと要望した経緯

もある。これからの町内会は整理統合する時期に来ている。

A 過去に町内会の統合も話合われたが、やはり歴史的な問題等もあり進みませんでした。社会福祉協議会で議論されている経過をみながら今後の町内の方について検討していきます。

Q 学校がなくなれば避難所はどうするのか。

A 市でも今後の跡地利用などを検討しています。避難施設としての必要性も感じており、例えば耐震化されている施設を複合的に利用する方法はないかなど検討していきます。

Q 住友赤平小学校が統合されますが、その後の跡地利用は、住友小学校については地盤の関係もあり、再利用するのは難しいと思います。

Q 愛真ホームもかなり老朽化している。将来的にどうするのか



A 愛真ホームは昭和53年に建てられて老朽化しているのは確かだが少しずつ修繕しています。

Q 赤平市の災害マップの中にももしエルムダムが決壊したらというのは入っていないが。

A 国に確認したところ、耐震構造もしっかりしていることで決壊の恐れはないので決壊した際は赤間の沢川に水がくると想定されるので、百戸地区の避難場所は翠光苑となっておりますが、その際はフリービルラの方に変更します。

Q 子ども達の安全確保のために、交通安全や防犯等について、学校と地域、市との連携をもっと深めてほしい。

A 登校途中の安全については、学校へも十分お願いしています。安全確保は、地域・学校・民間・市等が一体となってやるべきだと思います。

Q 消防はいつ頃建設するのか。跡地についてどうするのか。

A 消防は26年度あたりから

工事が始まると考えています。跡地についてはまだ決ま